

## 合同教育研究会議（7月13日開催）議事概要

### 1 開催日時

平成17年7月13日（水）13:00～13:55

### 2 場所

本部棟特別会議室

### 3 出席者

谷口学長、沼田副学長、太田原副学長、高橋副学長、細江教育・学生支援本部長、船生研究・地域連携本部長、坪山学部長（武田学科長代理出席）、佐藤学部長、曾我学部長、古川学部長、高橋短期大学部長、千葉学科長、菅田学科長、植田学科長、照井崇委員（遠藤洋一岩手県教育委員会教育次長代理出席）（事務局）

遠藤総務財務室長、吉岡参事兼教育・学生支援室長、佐々木研究・地域連携室長、小友主幹、立花主事

### 4 会議の概要

会議資料は別添のとおり

学長あいさつ

OECDでは、発展途上国が躍進する中、今後先進国が生き抜いていく政策の1つとして、教育への投資が重要との研究結果を出しているが、日本は国からの教育への投資が非常に少ない。国民が高い教育費負担を迫られている状況にあって、大学がどう生き延びていくかは大きな課題である。本学は恵まれた環境にあるが、これに安住せずよりよい教育研究の達成に向け取り組んで参りたい。

#### 【議事】

#### （1）年度計画について

沼田副学長より本日説明する年度計画は6年間の中期計画の今年度の実行計画であること及び教育・研究に関わる主な項目等について資料に基づき説明があり、下記のとおり意見交換された後、了承された。

#### <主な意見>

産学連携によって追加的収入を得ることについて、力を入れたい。テラヘルツなどももっとアピールが必要である。県内に連携する企業がなければ、県外にも目を向けていきたい。

金沢工大の取組みを参考にひとり研究所方式を取り入れたい。規則等の整備や人件費などの面を検討しているところである。

テラヘルツ研究についてはタイミングが大事であり、早くても遅くてもいけない。また、収支の面では、すぐに増収ということは見込めない。

教育に関する部分の実施については、本部と各学部の間で調整すべきところもあるので、調整しながら進めたい。

国際交流は今年度は大連交通大の学生を受け入れる。将来的にはアジアの他の国などとも交流したい。また、本学の場合、県への貢献も重要であり、小さなことからでも地域貢献を行っていく。この積み重ね無くして、日本あるいは国際社会への貢献はありえない。まずは当面アイーナキャンパスの活用に力を入れてまいりたい。

国立大は法人化に伴い学長に権限を集中させ、プロジェクト等に合わせた機動的な人事を可能にしているところもあるようである。本学も対抗策を考えていかないと、優秀な教員の引き抜き等が多くなることが予想される。

短期大学は社会の高学歴化にあって難しい立場にある。しかし磨かれる機会の少なかった子が磨かれる場でもある。本県には経済的な面で4年制大学に進学できなかった学生も少なからずおり、そういう学生を受け入れる高等教育の第一段階という位置づけでも人材発掘に努めている。短大もご活用いただきたい。

以上